

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373900345		
法人名	有限会社ジェイ・スパック		
事業所名	グループホーム「白寿の里」 1F		
所在地	愛知県稲沢市正明寺一丁目2-15		
自己評価作成日	平成29年 1月17日	評価結果市町村受理日	平成29年 3月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhvu_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 2月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設は国府宮神社に隣接しており、年間を通じて国府宮神社で行われる各行事に出かけている。特にはだか祭の際には施設を休憩所として提供し、はだか男と利用者がふれあい地域との交流を深めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームに勤務して7年目、管理者になって2年目を迎え、ホームが管理者のカラーになってきている。何をするにも全力で行い、職員や利用者を牽引していく強いパワーを感じる。  
 一時期の職員不足も解消され、職員配置にも余裕が出てきた。余裕をもって仕事が出来ること、職員が自然に笑顔になり、利用者も笑顔になる。相乗効果が出てきている。  
 管理者は職員を不安にさせないよう、瞬時の判断・決断をして対応している。特に健康管理に力を入れ、利用者の健康状態を把握し、水分摂取や排便管理等を行ったり、職員の体調管理(感染症の対応等)まで徹底して指導している。平均89歳と元気な利用者が多い。106歳の利用者は病気一つせず、「長寿日本一」を目指せるよう職員全員で支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームの理念に基づき、決まり事にとられずその日の体調に合った生活リズムで生活をしている	アットホームな雰囲気の中で過ごしてもらうために、一人ひとりの体調を把握し、その人らしく生活出来るよう、理念にもある「笑顔」を絶やさないホーム作りに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を持って行ったり、推進会議にて利用者さんの様子を伝えたり、地域の行事に参加したりしている	町内会に入会しており、地地域行事に参加したり、散歩の時に近所の方とコミュニケーションを図ったりと、良い関係が出来ている。恒例の「はだか祭り」には、40名程の裸男達がやってきて休憩をとる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の祭り(はだか祭)には施設を開放して、地域の人との交流を図るように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、地域包括センター、区長、民生委員、家族代表、施設代表が参加し報告意見交換を行いサービス向上に努めている	偶数月に年6回の運営推進会議を開いている。老人会会長が区長になったり民生委員になったりと、任期が終わっても次の役でホームとの関わりを継続している。	利用者や知見者の参加を求め、目標達成計画の進捗状況を議題に出し、会議がさらに活発化した意見交換の場となることを望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	回覧板を配り、推進会議に市役所、区長、民生委員の方へ出席を依頼し、現状を報告して協力を得ている	市・高齢介護課の職員が運営推進会議に毎回参加しており、ホームの状況を的確に把握している。生活保護受給者の入居が2名あり、管理者が生活保護の相談等に担当窓口に出かけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症のグループホームでは玄関の施錠をせざるを得ない。各居室、二階へは自由に出入りしている	玄関の施錠はしているが、将来少しの時間でも外せる時間帯を考えていく気持ちを持っている。新しい入居者や不穏な利用者がいない時に、試行しようとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、カンファレンスなどの話し合いで虐待に繋がりそうな事柄について話し合い、注意を払い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	耳が不自由で、上手く意思疎通が出来ない利用者さんに対し職員が代わって対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が重要事項説明書を読みながら説明し、家族の不安や疑問に答え、施設での生活の流れ等、理解、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見に耳を傾け、ご家族の面会時に、日頃と変わって来ている様子をお伝えしている	居室担当の職員が、毎月の利用者の状況を「お知らせ」に手書きで書いて家族に送っている。「お知らせ」に担当者名を書くことで、直接家族が担当者に話しかけることが多くなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を行っている。利用者さん、ご家族、職員と3方良しの職場作りを心がけている	気さくに話しやすいよう、管理者はいつでも聴く態勢を取っている。管理者も現場に入ることがあり、その場で聴いて解決できることは直ぐに対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の日々の努力や実績、勤務状況を把握するため、各職員と年に一度面談による話し合いの場を作っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員一人一人を把握し、研修を受ける機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟し同業者と交流する機会を持ち、勉強会を通じて、お互いにサービスの質向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時、本人の要望に耳を傾け困っていることを手助けできるよう計画書を作成し、集団生活に添っていけるように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時今までどのような生活をされていたか家族の方とお話しし、不安、要望等も伺っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族からの要望・不安等を伺い、本人の要望を聞きADLの状態を把握してから、対応策を考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から何でもない会話を大切にしている、おやつや食事は同じメニューで席をともに取り和やかな雰囲気の中で語らうようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご本人の状況をしらせている、行事などは早めにお知らせし家族の参加もお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られるご家族や友人には来て頂くだけで安心される事を伝え、何度でも来て頂ける様お願いしている。職員も面会者の顔、名前、関係を覚えるようにしている	現役時代にテニスを教えていた利用者の許に、当時の教え子が面会に来る。恒例のはだか祭りの裸男たちとは、ホームに来てからの馴染みになっており、前夜から興奮状態で眠れないほどの女性利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にはテレビを置かず、一つのテレビを囲みフロアで皆さんと一緒に楽しく過ごせる様にしている。共に過ごす時間を作り、利用者同士の関係も深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方や、ご家族の必要に応じて相談支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	テレビを観る人、人と話をしたい人、居室で体を休めたい人、などその人に合った過ごし方を送ってもらっている	フロアでは寄り添い、入浴や夜勤帯の時にはリラックスしてもらって思いを聞いている。誕生日には担当職員に欲しいものを頼んだりして、思いを叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書を作成し職員が共有できるようにしている、普段の会話の中で特に昔の話を大切に、今までの食事形態、生活のリズムを取り入れるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	軽作業の出来る方には、洗濯物量、食器拭き、タオル巻などを手伝ってもらっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを行い、問題点を話し合ったり、ご家族に対応の仕方などを聞いたりしている	本人、家族や担当職員等から利用者の思いや意向を聞き取り、3ヶ月ごとに介護計画を見直している。ダイエットを介護計画に取り上げ、達成した事例がある。	身近な課題を介護計画に取り上げているのは秀逸である。さらに、記録の中に目標達成までの経緯や本人の喜び等を書き込み、評価(モニタリング)の判定材料にすることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の職員間での申し送りや、生活記録を書き情報を共有し、カンファレンスを行い介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の状況に応じて、病院受診の付き添いなど対応している、外出なども同じように付き添い気分転換を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に定期的に訪問して頂き、楽しい時間が過ごせる様支援している、何歳になっても美しくありたい方の気持ちを重視して、近所の美容室で髪の毛のセットをお願いしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設でのかかりつけ医による往診が月に一度ある、今まで通院されていた病院で継続的に医療を受けられる方は、できるだけご家族の方に病院受診をお願いしている	強制はしていないが、利用者全員がホームの協力医をかかりつけ医としている。専門医の受診は基本的に家族対応だが、家族都合等で行けない時はホームで対応し、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時電話にて随時看護師へ連絡・相談が可能であり、その都度状況に合わせ対応ができる様にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリーを送り、その人が持っている病気を連絡している。個人情報保護の為、入院中の利用者の状態は職員には教えてもらえないので家族より情報を得て把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設に入所時に、これからどのように過ごしたいか、終末期をどの様に迎えたいか利用者・家族に確認している。利用者・家族の意志を明確にする為、急変時における同意書への記入をお願いしている	利用契約の時に終末期の話をしている。食事が口から摂取できなくなるを目安に、医師、家族、管理者と話し合いを行い、利用者にとっての一番良い方法を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に迅速に対応できるようにマニュアルを作成している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選出し、非常食など期限が切れない様管理している。年に2回避難訓練を行い、利用者が迅速に避難できるようにしている	年2回の避難訓練(夜間想定)を行っている。日頃から近隣との交流があり、罹災時には助けに来てもらえる関係が出来ている。備蓄は2~3日分で、水と主食を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を持って接し人格を尊重し言葉遣いにも注意をして接している	プライバシーの確保に関して、個別対応をしており、耳の不自由な利用者には大声で話さずに筆記して伝えている。声をかけてから居室、トイレ、浴室等の扉を開け、言葉遣いや声のトーンにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が訴えや希望に添えるように傾聴し、声掛けにも留意して自己決定が出来るように支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴は職員のシフト上時間が決められているが、その中でも利用者の希望は大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度移動美容室の訪問を楽しみにしている、更衣が一人で難しい方は着替えの服を職員と一緒に選び、本人の意見を尊重している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者からの取り寄せの為に一緒に調理はしませんが、一日のメニューを食堂に掲示し食事を楽しみにしてもらっている。月に一度手作りおやつを利用者と一緒に作り食べている	食事は配食業者から届くが、近隣から差入れがあった野菜やホームの菜園で出来た野菜を収穫し、一品として加えている。利用者と職員と一緒にいるおやつ作りは、月に1度の大きな楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やコーヒーなど水分補給の時間を定期的に確保している。利用者の状態に合わせて食事を食べやすい大きさにして提供している。毎食後、食事摂取量のチェックをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし口腔ケアをしてもらっている。困難な方には介助・見守りをしている。歯ブラシが使用できない方には口腔ケアウエッティーを使用しふき取りをしている。また、義歯の方は就寝前に必ず取り外し、洗浄している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをつけ利用者の排泄パターンを把握し、声かけ、誘導、介助を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、個別に声掛けや誘導を行っている。便秘薬の調整は夜にしている。トイレットペーパーがなくなったことや、排尿や排便の状態を正確に報告してくれる利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操の参加を促し、職員と一緒に身体を動かしている。水分補給をこまめに行っている。下剤の調整はその都度状態に合わせて、看護師、職員で話し合っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はシフトの関係で時間が決まっていますが利用者の体調や要望に合わせて、入浴日の変更を行っている。浴槽に入るかシャワー浴にするのか一人一人に確認している	2人でも入れる広い浴槽なので、利用者が湯船に入っている時は、安全確保の観点から目を離さないように注意している。週3回の入浴だが、体調に合わせてシャワー浴や清拭に変更する等、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度の管理、及び適切な寝具への交換に注意をしている。体調不良などで入床するのかを声掛け確認し、安心して休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては定期診察医師の指示を受けている。職員は誤薬が無いよう名前を確認し、飲み込むまで見守り、利用者の体調の変化の把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭き、タオル巻、洗濯物を畳む事をしていただいている。音楽な好きな利用者にはカラオケをして懐かしい曲を流し職員と共に歌って楽しんでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は近所へ散歩に出かけているが、あじさい祭りなど地域の行事にも毎年参加している。またご家族にも買い物や喫茶店への外出の協力をお願いしている	利用者の誕生日に行きたい所を聴き、個別で出かけている。外出が難しくなった利用者は、ホームで他の利用者と一緒に食事を楽しんでいる。日常的には、庭の長いすでくつろいだり、国府宮神社まで散歩したりと、外気に触れる機会を作っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いで、お金を持ってみえる方もいる、ご自分でお金を持つ事により安心感、自信を持っていただく、家族と一緒に買い物へ出かける方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解を得て、希望があればいつでも家族へ電話をかける事ができる、三か月に一度担当者から家族の方に出す手紙にご本人のメッセージを書いていた		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温調整や加湿調整を行い快適な空間が提供できる様努めている。季節ごとに利用者と共に作成した貼り絵などを飾り、明るい雰囲気を感じられる様にしている	季節ごとに利用者と一緒に作品を作り、リビングや玄関に掲示している。利用者の外食の時の写真を花に見立て、梅の木に咲かせた作品が掲示してあった。大きな丸いテーブルとソファがあり、思い思いの場所で自由にくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではソファと一緒に座ったり、食堂で新聞を読まれたりとくつろいで過ごしていた		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、利用者が長年愛用していた物を持ってきてもらうなど使い慣れた物をお願いしている、また好みの色のシーツや布団カバーを使用し居心地よく過ごせるように心掛けている	仏壇や化粧品、植木鉢の花等が持ち込まれ、家族との写真やイベント時の写真等が掲示されている。慣れ親しんだ調度品が置かれている居室が多く、居室の入り口には、避難するための心得が掲示してある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーとなっており、トイレ、洗面所などへも自由に動く事が出来る。トイレは扉ではなくカーテンになっておりフロア中央から安全な様子を確認する事が出来る		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2373900345		
法人名	有限会社ジェイ・スパック		
事業所名	グループホーム「白寿の里」 2F		
所在地	愛知県稲沢市正明寺一丁目2-15		
自己評価作成日	平成29年 1月17日	評価結果市町村受理日	平成29年 3月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2373900345-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年 2月13日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設は国府宮神社に隣接しており、年間を通じて国府宮神社で行われる各行事に出かけている。特にはだか祭の際には施設を休憩所として提供し、はだか男と利用者がふれあい地域との交流を深めている。春はお花見、夏は盆踊り、秋には敬老会、冬にはクリスマス会を開き、四季のイベントを大事にすることで、季節感のある生活を楽しんでいただけるよう心掛けています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームの理念に基づき、決まりごとにとられずその日の体調に合った生活リズムで生活をしている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧版を持って行ったり、推進会議にて利用者さんの様子を伝えたり、地域に行事に参加したりしている	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の祭り(はだか祭)には施設を開放して、地域の人との交流を図るように努めている	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、地域包括センター、区長、民生委員、家族代表、施設代表が参加し報告意見交換を行いサービス向上に努めている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	回覧版を配り、推進会議に市役所、区長、民生委員の方に出席を依頼し、現状を報告して協力を得ている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症のグループホームでは玄関の施錠をせざるを得ない。各居室、二階へは自由に入りしている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、カンファレンスなどの話し合いで虐待に繋がりそうな事柄について話し合い、注意を払い防止に努めている	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	耳が不自由で、上手く意思疎通ができない利用者さんに対し職員が代わって対応している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者が重要事項説明書を読みながら説明し、家族の不安や疑問に答え、施設での生活の流れ等、理解、納得を図っている	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見に耳を傾け、ご家族の面会時に、日頃と変わってきてる様子をお伝えしている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議では、常に何でも話しが出来る様にしている。日頃から声かけ対話を交え、意見交換をしやすい人間関係作りをしています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の日々の努力や実績、勤務状況を把握するため、各職員と年に一度面談による話し合いの場を作っている	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が職員一人一人を把握し、研修を受けさせる機会を作っている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡協議会に加盟し同業者と交流する機会を持ち、勉強会を通じて、お互いのサービスの質向上に努めている	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に傾聴しながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に面談を行い、利用者の心身の状態や人柄を伺うとともに、家族からの不安や要望も伺っています	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族からの要望、不安等を伺い、管理者、職員で情報を共有し日々の支援に努めています	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段から何でもない会話を大切にしている。人生の先輩として尊い、尊敬と敬意を持って接している	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、3ヶ月に一度のお知らせ(手紙)で、利用者の施設での生活をお知らせしている。ご家族の協力が必要になる時もあり、不安のないよう随時連絡を取り信頼関係を築いています	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる家族や友人には来て頂だけで安心される事を伝え、何度でも気軽に来て頂ける様努めている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもりすぎないように、おやつの時間、レクへの声掛け利用者同士の関わり方の支援を努めている	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方やご家族の必要に応じて相談や支援に努めている	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言動、表情を観察し穏やかな気持ちで接し、利用者の意向をくみ取るように努めている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に情報提供書を作成し職員が共有できる様にしている。また普段の会話の中で特に昔の話を大切にしている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の生活リズムを崩さない様に食事、排泄、入床時間など気をつけている	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りで気づいた点があればすぐ話し合いの場を作り、介護計画の見直しをしている。また定期的にカンファレンスを行い、モニタリングをし利用者の現状に変化した介護計画を作成しています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録で情報を共有し、カンファレンスを行いそこで出た意見を基に介護計画に反映している	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会の外食、花見など利用者の状況に応じて付き添いなどの取り組みをしている	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域と連携をとり、敬老会等の行事に参加できるように支援している。地域のボランティアの方に定期的に訪問して頂き、利用者と共に楽しい時間を過ごしていただいている	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度かかりつけ医の往診がある。今まで通院されていた病院で継続的に医療を受けられる方は、できるだけ家族の方に病院受診をお願いしている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	生活記録や申し送りノートへの記載による伝達や必要時電話にて随時看護師へ連絡・相談が可能であり、その都度状況に合わせ対応ができる様にしている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に伺い、必要時洗濯物や不足物品の手配など、家族に代わり協力している。個人情報保護の為、入院中の利用者の状態は職員には教えてもらえないので家族より情報を頂き把握している。救急による入院は管理者が付き添います	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、これからどのように過ごしたいか、終末期をどのように迎えたいか利用者、家族に確認している。利用者・家族の意志を明確にする為、急変時における同意書への記入をお願いしている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故に迅速に対応できるようにマニュアルを作成している	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を選出し、非常食など期限が切れない様管理している。年に2回避難訓練を行って避難場所を地域の方と共有させていただいている	

自己	外部	項目	外部評価		
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し人生の先輩として尊敬を持って接している、特に入浴、トイレ介助時は羞恥心の配慮を心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	夏の行事の際に本人に浴衣の柄や帯を選んで頂き着用しました。レク作成時にも希望を取り入れながら支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴は職員のシフト上時間が決められていますが、それ以外は利用者の希望は大切に過ごしていけるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時々ネイルを施したり、フェイシャルマッサージやバックを行いおしゃれ気分を楽しんで頂いている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は業者からの取り寄せの為一緒に調理はしませんが、月に数回、利用者と一緒に好み焼きやパンを手作りしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶やコーヒーなど水分補給の時間にカラフルなコップを使用することによって興味を示し、摂取意欲を出している。毎食後、食事摂取量のチェックをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけをし口腔ケアをしてもらっている。困難な方には介助、見守りをしている。また、義歯の方は就寝前に必ず取り外し、洗浄している		



自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをつけ利用者の排泄パターンを把握し、利用者一人一人の時間に合わせ声掛け誘導を行いトイレでの排泄を支援している	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操の参加を促し、職員と一緒に身体を動かしている。水分補給をこまめに行っている。下剤の調整はその都度状態に合わせて、看護師、職員で話し合っている	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はシフトの関係で時間が決まっていますが利用者の体調や要望に合わせて、入浴日の変更を行っている。本人の希望に応じて入浴日の変更も行っている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調節は利用者一人一人に合わせて安眠頂けるように支援している	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては定期診察医師の指示を受けている。職員は服用し忘れ、誤薬がないか注意を払い飲み込むまでを確認しその後も利用者の体調の変化の把握に努めている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る事、出来ない事を把握し、お手伝いなど役割を持った生活をしてもらっている。趣味を活かし、和柄の布を使ったフォトフレーム作りなどを行っている	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	誕生日月に本人の希望に応じて外食の支援を行っている。天気のいい日は近くの神社へ出かけたりしている	

自己	外部	項目	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いで、お金を持ってみえる方もいる。紛失ないように支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親族より頂いた絵手紙に返事を出すために葉書購入などの支援をしている	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	秋には散歩で拾ったどんぐりを使った飾りをかざったり、クリスマスには手作りのリースと一緒に飾ったりと季節感を感じられるよう努めている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを置き気の合った利用者同士が談笑出来るようにしている。テーブルでは共同作業を行ったりしている	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具を持ってきて頂くなどして居心地よく過ごせるように工夫している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	全てバリアフリーとなっており、トイレ、洗面所など安全かつ自立した生活を送れるようになっている	